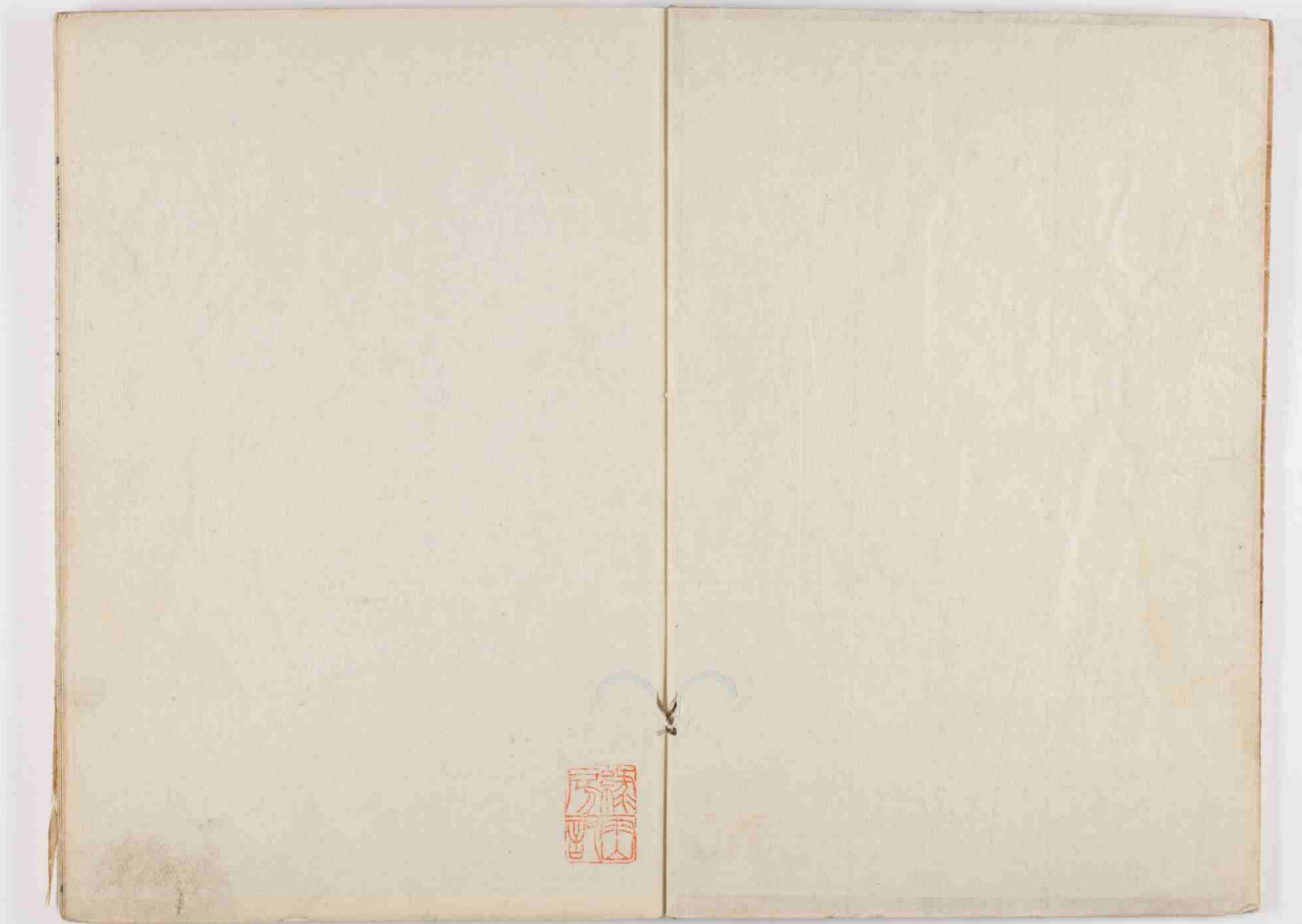


以下 汚れあり

以下 虫食い

1/23





以下 破損



毎原寺の足觀上人高志路日記云云西三辛卯卯月十日蒲原郡
 本明寺に於て觀上と云ふ黒川に傳へ中條のうらと云ふ寺に於て
 此の世に古聖宮ありわ、秘田の寺内村も古聖宮の宮あり其外ありわ
 ばぬ神や中をのゆきと云ふはやと世に南本町をりてありわ
 三王村とも山王社地ありし屋戸三四十ありわ、その村も日下部大和と云ふ
 の外にも世に日下部氏の領ありわ、此の村も宿をりてありわ
 ともく高王と云ふは沖にありわ、此の村も宿をりてありわ
 神武天皇より十代宗神天皇の皇子四人ありわ、中へ大彦と云ふ
 といふは世の終りの由也のみをありて古四王といふは中へありわ
 古四王といふは世にありわ、此の村も宿をりてありわ
 中へありて唯四天王といふは中へありわ、世にありて宿をりわ
 とも世にありて宿をりわ、此の村も宿をりてありわ

世にあり

足觀日記

相屋

とう天和壬戌の夏北陸行脚の草鞋とてき哉路の山川をうけりとも
 うしけりゆふふの月の中れ日さしす哉の後が蒲原の東を
 川のりて鳥原の里とわり羊あめりてとて家居とも見えたり
 けるふ門半制札るまにまつりありわけの事なりあり是も
 里の長つるりともぬをぬきまなり一夜とありふりていづれ
 けりぬまとも足あどすも湯めしされむも燭をとり座をとり
 夜も、と母えぬぬもすもあつらぬの也名いとせりて
 重宝とるやうちがけしと女に世遠の店司に民の権あつたり
 ち一月とあつらぬ夜の事とて田舎にすも
 ちあつらぬとてせりてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

同者をも仕をり哉を川の端

ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

一りえにり

まはつこつて用意して蚊よと蟻よもさへせびさしむの涼みけり
膝より冷まきわやけ酒さるふちのさるひりてのさるひりて
内より心流ひきあわゆるけりおあり東南の夜ふあつてや
さるひりてあつてけりさるひりてのさるひりてけりさるひりて
常是のひりてさるひりてのさるひりてのさるひりてのさるひりて

書海

書宅

あしらのさるひりてのさるひりてのさるひりてのさるひりて
蚊のさるひりてのさるひりてのさるひりてのさるひりて
富士山の雨のさるひりてのさるひりてのさるひりてのさるひりて
さるひりてのさるひりてのさるひりてのさるひりてのさるひりて
さるひりてのさるひりてのさるひりてのさるひりてのさるひりて

書海

書

是は三句ややぬさるひりてのさるひりてのさるひりてのさるひりて

あしらのさるひりてのさるひりてのさるひりてのさるひりて

書

磯のあつてのさるひりてのさるひりてのさるひりてのさるひりて

書宅

とほや名湯をぬむらさるひりてのさるひりてのさるひりてのさるひりて

三物や情中てぬさるひりてのさるひりてのさるひりてのさるひりて

とよま書海

是は十言詰りてのさるひりてのさるひりてのさるひりてのさるひりて

あつてのさるひりてのさるひりてのさるひりてのさるひりて

あつてのさるひりてのさるひりてのさるひりてのさるひりて

重寔の舎を子息に門送りて名残さるひりてのさるひりてのさるひりて

難ゆひりてのさるひりてのさるひりてのさるひりてのさるひりて

路ふかきさるひりてのさるひりてのさるひりてのさるひりて

一カニ

四

あつち重宅を公用の事とせられし頃よりあれども遠くを舟運の夏
草はの畔をとりてあるに於て、戯れの戯れをせん

まわつたあつちのいづれもいづれも 重宅 とうまのあつち

まをさぬる及せられし頃よりいづれもあつちのあつちをせん

天野の風味とせられし頃より行平の自の須磨の浦つひおりの戯れを戯

今うゆりこめやあつちのあつちをせん とうまのあつち

せり及び俄にせられし頃よりあつちのあつちをせん

重宅のあつちをせんとうまのあつちのあつちをせん

こふ軒のあつちのあつちをせん一夜あつちのあつちをせん

あつちのあつちをせんとうまのあつちのあつちをせん

あつちのあつちをせんとうまのあつちのあつちをせん

あつちのあつちをせんとうまのあつちのあつちをせん

あつちのあつちをせんとうまのあつちのあつちをせん

あつちのあつちをせんとうまのあつちのあつちをせん

あつちのあつちをせんとうまのあつちのあつちをせん

あつちのあつちをせんとうまのあつちのあつちをせん

あつちのあつちをせんとうまのあつちのあつちをせん

あつちのあつちをせんとうまのあつちのあつちをせん

あつちのあつちをせんとうまのあつちのあつちをせん

あつちのあつちをせんとうまのあつちのあつちをせん

あつちのあつちをせんとうまのあつちのあつちをせん

あつちのあつちをせんとうまのあつちのあつちをせん

あつちのあつちをせんとうまのあつちのあつちをせん

船(舟)の事にはいふくわくせよとていふ事あるは是れ船にあたりと云ふは山崎、
 とももつれは別物甚な名残がとつてもくわはれをいふはまていふ事と見ゆ
 りなる馬をいふてもうばいといふ事には白根町とくわはれが足ふと云ふは
 てきつたりある所ん北園大豆と云ふ事と云はつていふ事とわくは是れ重電
 の運轉の事といふ事と云はれといふ事とわくは是れ足のみりくわはつていふ事
 と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 先別の名残世と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 をいふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 ありこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 溝と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 といふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

川の水にのりをはかりてとていふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

かつと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 といふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 もも舟と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 の昔の川りの事をいふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 われといふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 ような事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 通(河)りぬ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 事といふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 時といふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

柏崎

柏崎 木 仰 ろき 橋あり そと 高藤橋 と 仰 あ 橋 と 仰 せり 世寺 と
 高田御淨寺真宗淨興寺の掛所の出坊 柏崎 とも 淨興寺 と 高田御淨
 寺 と とも 鳥羽院中二皇子草創の寺 と 宗の本願寺 と とも じ 任僧
聖徳太子の 仰 ろ 橋あり そと 高藤橋 と 仰 あ 橋 と 仰 せり 世寺 と
の 仰 ろ 橋あり そと 高藤橋 と 仰 あ 橋 と 仰 せり 世寺 と
仰 橋あり そと 高藤橋 と 仰 あ 橋 と 仰 せり 世寺 と
 任られ 柏崎 とも と 宗の本願寺 と とも じ 任僧
 張 と とも じ 任僧
 圓覺寺の禮通は任じ と 宗の本願寺 と とも じ 任僧
 寺 と とも じ 任僧
 の と 宗の本願寺 と とも じ 任僧
 仰 ろ 橋あり そと 高藤橋 と 仰 あ 橋 と 仰 せり 世寺 と

逆谷村寛益寺由来由

寛益寺號賢王山遍照院人自王四十四代元正天皇御宇美長老戊午曆
 行基四九歳草創也平城天皇御宇大同二奉丁亥年殿閣建立七間方木
 工棟梁飛彈工也再興寛永元年平城天皇御宇甲子正月廿五日頓大嘗
 摸破堂社時任職良季法印古志郡長岡領主牧野駿河守忠成助
 力也願成就精舎畢依之棟札記於取奉再興藥師堂伽藍安全
 奥隆佛法密宗教旨旦披相應二世安樂所右大旦那牧野駿河守
 源朝臣忠成同 今泉竹工門牧野兼左工兩真太子在御宗隆与市石御堂三奉海
再興 成就一切日皆善一切宿皆賢諸佛戒威德羅漢戒行滿以斯誠實言願
 我吉祥願主權大僧都法印良秀の寛永元年霜月十日成就畢 云 寛益
 寺衆徒人数 遍明坊 實覺坊 無動坊 富音坊 止常寂坊 满月坊
 寶幢坊 圓写坊 華常坊 佛眼坊 空齋齋坊 上乘坊 華藏坊 弘慶坊
 圭 三三

相屋

日藏坊、本光坊、東賢坊、曹日坊、已上八坊、康應二年八月八日
 執筆、慈辨坊、已上、腹巻之記録如件、云、頼朝卿言、石末中、鎌慶
 筆跡、般若金部二百卷、其外什物、寺号等、近上杉、長勝、奥州會津、元暦時、節
 僧、俱相率、悉所、後、彼、地、云、東、慶、曼、荼、羅、寺、跡、境、山、林、在、山、内、不、如
 漸、有、古、道、弘、法、彫、刻、石、不、動、云、他、寺、在、宮、慶、任、之、法、政、三、尊、云、元、祿
 初、併、當地、頭、物、群、周、防、寺、庵、重、臨、乃、喜、提、所、表、表、本、尊、時、住、持
 者、賢、法、印、領、全、初、願、寺、寶、壽、院、兼、帶、故、不、及、吾、仗、捨、安、壽、寺、云、
 台、録、記、指、云、又、曾、我、孫、師、坊、事、後、記、見、回、跡、之、公、書、也、

○小籠村東寺由來

郡大面庄、小籠村、寺、人、室、仁、代、後、深、年、帝、建、三、年、玄、年
 草、創、門、尖、賢、釋、師、講、道、隆、興、漢、宗、國、西、蜀、之、人、自、建、五、代、唐、佛、續、任
 賦、三、門、羅、漢、在、又、改、後、山、匠、世、三、以、觀、方、の、勸、請、

○てのり上人

手、鞠、上、人、と、出、す、所、の、揚、由、之、三、年、代、の、揚、由、之、
 長、寛、と、云、國、上、山、の、五、合、子、位、今、作、り、さ、す、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、
 袖、も、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、
 け、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、

○あごのつと

名、寄、の、式、文、り、此、の、文、は、
 東、川、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、
 吾、妻、川、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、
 小、倉、奈、古、繼、橋、と、云、今、吾、妻、川、と、云、
 省、き、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、の、う、い、

○右明浦

五、平、嵐、演、と、云、夫、も、東、為、實、強、

海の色より名の浦の東見えて潮流も出く後月影

○伊久里 景和 藤 時子 名し村

生栗井栗の地あり其地名今いふれよゆで蒲島郡三條郷
越前守の村あり万葉
妹の母いづらの村の名を今いふも名をたてしるむ

○科野の濱 厚 下 家持

信濃濱を新河のありと名する科野國より大河三ツ流て其川
その國の水内郡凡曲橋と名する高志後國より新河は海に
世俗八十八川と名する流と名する新河は海に
當ころつと名する新河の名も名をたてしるむ

この山をいふ名をいふも名をたてしるむ

○二回土の山

この山をいふ名をいふも名をたてしるむ
秋前秋中秋後出れば陸奥の地と名する

拾遺集名鎮のむすの山

○秋路の浦

是も秋前秋中秋後のうららけと名するこの浦は
昆山阿堂為兼卿佐度あり左邊のとき幸原の妹女初君
よめは秋路の浦と名する
あかりの浦と名するはもとよりの浦と名する
秋路の浦と名するはもとよりの浦と名する

○名々の浦

攝津國同名あり秋の海を名する名立阿波一本木中と名する
古名大カと名する経典川と名する右名

順徳院佐度嶋左邊結ひしは月影の浦と名する

はるくしと名する名も秋路の浦と名する名たてしるむ

○幸清水

蒲原郡新津之清水其地汚濁故無清泉今茲文化四年
六月真田中清將涌出邑民感喜因名幸清水
賢曰無厭地薄唯貴俗淳茲挺清泉以幸雨民
是觀自茲乃之

幸清水

北越蒲原郡新津其地汚濁故無清泉今茲文化四年
六月真田中清將涌出邑民感喜因名幸清水
賢曰無厭地薄唯貴俗淳茲挺清泉以幸雨民

右大將愛德

是觀自茲乃之

續紀卷第

文武天皇御世十月庚辰賜越後國夷狄物
各有差○三月丁卯越後國言被給藥救之○

壬寅越後國蝦夷狄獻方物○

丁未令越後國修理石船柵○夏四月己酉
越後蝦夷一百六人賜爵有差○己亥令越後

佐渡二國修營石船柵○大寶元年壬子令筑

紫七國及越後國簡點采女兵衛貢之但陸

奧國勿貢○大寶二年九月丙戌越後國言

新造出羽郡許之○四卷壬戌陸奧越後二國

蝦夷野心難副屬言良民云云民都大輔正五

位下佐伯宿祢石湯為征越後蝦夷將軍內藏

頭從五位下紀朝臣諸人為副將軍。出自兩道征伐。授
 即刀并軍令。已。知。遠。江。駿。河。甲。斐。常。陸。信。濃。上。野。陸。
 奧。越。前。越。中。越。後。等。國。士。經。征。伐。五。十。自。已。上。者。賜。
 復。一。年。之。云。
 六。卷。聖。武。元。龜。元。年。七。卷。元。龜。元。年。九。月。丁。酉。以。信。濃。上。
 野。越。前。越。後。四。國。百。姓。一。百。戶。配。出。於。柵。戶。
 後。紀。延。曆。十。五。年。正。月。任。官。以。從。五。位。下。越。後。守。
 坂。上。大。宿。祚。田。村。麻。呂。為。陸。奧。出。羽。按。察。使。兼。陸。
 奧。守。○。十。月。降。平。水。寶。實。寺。行。行。一。云。相。撲。武。藏。上。慈。
 常。陸。上。野。下。野。出。羽。越。後。寺。國。民。九。十。人。以。公。可。伊。勢。治。
 の。城。下。評。置。置。一。云。治。の。小。延。曆。十。五。年。
 五。卷。の。七。年。庚。午。越。後。國。米。一。萬。六。百。斛。佐。後。鹽。一。百。二。千。斛。
 每。年。運。送。出。羽。雄。勝。城。為。鎮。兵。糧。

續紀 天平寶字三年庚寅遷坂東八國並越前能登坂後
 等四國沿海人二十人以雄勝柵戸一云
 同世八延曆四年越後國上三浦原郡人三宅連菅原藤原著
 稻十萬積而能施寒者與衣飢者與食兼修造道橋
 濟利艱險積行經寺誠令舉用授從八位上

續紀廿一卷淡路廢帝御世天平寶字二年丁酉始頒
 越中佐後出羽石見伊豫等四國飛騨一國
 飛騨驛鐸
 丁酉始頒

○ 竺別吹社

夫葦原神を前首峰の宮居り原を以て原部一族
として遷居後平心御の社前りて此社を著して
はまの御りわきよりて山凱陣のとき松語の
やが前りて著してしりて年々此社に
とまひて寒川のゆきを長き船止りしりて

○ 五十二野

五十野古四王社あり五十二野社あり
より預城郡も同名伊治美あり由開天皇
分爲郡屬上總國すこ舊事紀伊其國造あり
國夷瀧郡ありす續紀九八三陸奥國栗原郡
伊治城あり

○ 乙齋員寺大日如來

乙村の乙齋員寺をきのりて紀巨作美の
見えり大日堂の前より三層の塔ありと
乙齋員の上は棟のてまの作りて大日如來の
金剛杵ありて甲寺の今辰旦國ありて
上あり乙寺と云り甲寺の今辰旦國ありて
南天竺の波羅門僧正此國に居りて行基僧正
合て左眼佛舎日本高志の好あり乙寺右眼
利を西辰旦とて甲寺とて乙寺の
七道鎮撫使又京畿内及諸國兵士依舊
鐵利惣一千百餘人募化末朝安置出羽國
とて乙寺の好あり乙寺の好あり乙寺の好あり

○あつてこらりの里

續紀延暦八年五月癸丑、勅征東將軍白見比來、養壯知官軍
 不進、猶帶衣川、云別將丈部善理進士高田道成、會津
 壯麻呂、名宿、戸吉大伴、五百繼等並、戰死、云々あり、
 世々より、大方、越後、出羽、陸奥の、わづらひ、あり、
 高田の、安宿、戸吉、といふ、名あり、安宿、戸吉、を、今、云、
 小吉、戸吉、といふ、名あり、
 云々あり、安宿、戸吉、といふ、名あり、
 云々あり、安宿、戸吉、といふ、名あり、

○白ぶのしき
 湊川をわたり、
 片町、久度濱、
 西ヶ窪、
 鷹子濱、
 上下濱、
 三ヶ屋濱、
 直海濱、
 行の濱、
 湊川をわたり、
 鷹子濱、
 上下濱、
 三ヶ屋濱、
 直海濱、

中と記あり嘉嘉とありと大智の錢の鉢あり障蓋あり
強き海と有りの浪山とありの山とありの書ありありと櫻井室
少とあり夫も事ありとあり
波の上り有明の浦の糸見とありは池もとあり残る月影
五葉あり

鹽田道人
與板村徳生寺 禪林
了のりありの
ありありの上人

頸木部大鹿里民天狗のやぶひは遠くを廿年経て来り身もまじり
 入らぬ天狗の草天狗柴天狗木草天狗天狗大天狗の品あり物れら
 ぶとて身も天狗の同じく世に知らる事やと流し高田候大下世に
 とうけい知を修ひしりしとて世に天狗堂と書しとてしりし地
 ともつれん今も信濃國石鏡山にありてはるものありしりあり
 江源部鑑巻第二十八年八月五日書日高嶺郡より廿九年以前
 天狗のやぶひなる者古郷にありしりし布竹の事と傳へ今日高嶺郡に
 あり觀音城へ彼者とうよる屋形かの者を徳園の間の庭中舟
 馬淵源意齋とてしりし事と聞ひしりしは母もこのを流し其後
 高田へ入るに後に行きしりしとてしりしを流しとてしりし
 ありしりしとてしりしとてしりしとてしりしとてしりしとてしりし

〇首尾那須彦乃在少吉村塚本山魚目圓明寺是觀天齋
 世原本所
 十三世より祖母春照院辞世七十の時七十年來一夜夢
 七十年來一夜夢
 九十年來一夜夢

